



【神奈川】神交共は20日、「交通事故防止セミナー」を開催。年末の繁忙期に向けて事故防止を徹底するために実施しているもので、山下恭一・交通安全対策委員長があいさつで、「上半期の対人賠償などは減ったものの、死亡事故は5人と前年から増えており極めて厳しい状況。組合員の事故防止意識が喫緊の課題」と強調した。

「事業用自動車の安全対策」について、関東運輸局自動車技術安全部保安・環境課専門官の松澤建一氏が講演。事故事例などを紹介しながら、人的要因、車両要因、環境要因、管

神交共 交通事故防止セミナー

安全対策と健康管理学ぶ

理要因から事故原因を分析した。

第二部では、ヘルスケアネットワーク副理事長の作本貞子氏が「ドライバーの健康管理と事故防止のポイント」について講演。睡眠時無呼吸症候群の検査と取り組みについて解説し、正しい知識を持って早期発見と早期治療が大切とした。また、健康起因の交通事故を防ぐには定期健康診断の実施が重要とした。運送業界では受診率が低い点と有所見率が高いのが課題と指摘し、検診結果を活用して、有所見率の高い営業所は労働環境などを見直す取り組みも紹介した。

(千葉由之)